

決 議

北朝鮮の5回目の核実験に断固抗議するとともに、 核保有国が、核兵器廃絶のために誠実に努力することを求める

9月9日、北朝鮮は5回目の核実験を行った。

われわれは、今回の北朝鮮の核実験に断固抗議する。

これは、北朝鮮に「いかなる核実験または弾道ミサイルの発射もこれ以上実施しないこと」を要求した国連安保理決議や、2005年の「一切の核兵器および現在の核計画を放棄する」と合意した6カ国協議共同声明に明らかに反する暴挙である。

加えて、われわれは、度重なる「弾道ミサイル」の発射という、挑発的で緊張を激化させ、北東アジアの不安定化を助長する北朝鮮の政策に強く抗議する。

おりから、国連作業部会が、2017年に核兵器禁止条約について論議するよう、この秋の国連総会に「勧告」することを決定し、被爆者をはじめ、核兵器廃絶を願う市民世論が実りつつあると期待した矢先の核実験に、心から憤りを覚える。この数年来、核兵器を法的に禁止するためのいくつかの提案が、国連加盟国の3分の2を超える圧倒的多数の国の賛成で決議されており、北朝鮮自身も、そのいくつかの決議に賛成しているだけに、期待を裏切る行為は許されない。

われわれは世界で初めて原爆による惨禍を体験した被爆者として、また被爆地・広島
の市民として、北朝鮮の核実験強行に強い怒りを込めて重ねて抗議する。

一方、アメリカなど核保有国は、核兵器の「非人道性」をもはや否定することができないにもかかわらず、依然として「核抑止力」に固執し、あれこれ理由をつけて自国の核兵器を正当化している。「抑止力」論からは、核軍備拡大と新たな核兵器国の登場という結果しか生まれないことはこの間の歴史で明らかである。

核保有国は、「核兵器廃絶」のために圧倒的な国際世論となっている「核兵器禁止条約の交渉開始」に向けて方向転換し、「核兵器禁止条約」の交渉開始のため、国連加盟諸国とともに積極的な役割を果たすことを求める。

また、北朝鮮に対し、ただちに核兵器の開発・実験計画を放棄することを求めるとともに、関係各国に対し、朝鮮半島非核化と北東アジアの平和と安定のため6カ国協議を含むあらゆる機会をもうけて、誠実に話し合いを継続するよう強く要求する。

さらに、日本政府に対しては、被爆国として、「核兵器禁止条約」の交渉開始のため、積極的なイニシアチブを発揮するよう求める。

以上決議する。

2016年9月11日

北朝鮮の5回目の核実験に抗議する座り込み行動参加者一同